進路ジャーナル



青森県立森田養護学校
進路指導部７月号
発行日　Ｒ８．７．２３

６月22日からシカゴで開催された AAIDD（アメリカ知的・発達障がい学会）の年次総会において、「知的障がいのある卒業生の職場定着に影響を与える要因」に関する研究が発表されました。発表したのは、筑波大学の大学院生の方です。

この研究によると、職場に定着した人たちには、次のような共通した特徴が見られたそうです。

① 自分の得意なことや苦手なことを分かっていること
② 「自分ならできる」という自信（自己効力感）をもっていること
③ 困ったことや難しさを、成長のきっかけと前向きに捉えようとする姿勢があること

そして何より、

④ 自分で進路を選んでいること

一方で、早い段階で仕事を辞めてしまった方の中には、保護者や学校から勧められて進路を選んだケースも多く、自分の「やってみたい」という気持ちとのつながりがやや弱い傾向があったそうです。

このお話を聞き、高等部での学習や産業現場等における実習の大切さについて、改めて考えさせられました。これらは、単に就職のための知識や技能を身に付けるだけでなく、「自分を知ること」「自信をもつこと」「自分で将来を考えること」につながっていく大切な学びの機会です。

また、以前、愛媛大学の教授でいらっしゃった上岡先生は、「小さい頃から家庭でお手伝いをしてきたことや、お手伝いをした後に『ありがとう』と感謝される経験が、仕事を長く続けることにつながっている」とお話しされていました。

これは、仕事を“できるかどうか”だけではなく、「誰かの役に立っている」という気持ちをもてることが大切であることを教えてくださっているのだと思います。

もうすぐ夏休みを迎えます。この期間をよい機会として、ぜひご家庭でお手伝いに取り組ませてみてください。そして、その際には、ぜひ一言「ありがとう」と声をかけていただければと思います。

また、高等部の生徒の皆さんには、4月からの学校生活を振り返りながら、「自分は何が得意かな」「どんなことを頑張りたいかな」といったことについて、ご家族とゆっくり話し合う時間をもっていただければうれしいです。





「企業・福祉施設合同説明会」には、ハローワークも参加されます。
また、施設の見学会もありますので、ぜひご参加ください。